

## 花菖蒲

花菖蒲は江戸中期ごろ、東北の野山の湿地地帯に咲いている野花菖蒲を採集し、江戸に持ち帰り当時、堀切地方の松平定朝（菖翁）が品種改良を加え 300 種近く作りそれが現在の江戸系戸と言われるものです。特徴は江戸っ子的で粋な感じの花です。これが江戸の諸大名が愛好し。江戸後期になると、庶民の間でも愛好家が増えていきます。松平氏が熊本に左遷されたとき、熊本城主細川斉謹が哀願して門外不出を条件に藩士を弟子入りさせ室内観賞用として武士の勇壮な姿に似せ改良を加え肥後系が作られました。伊勢系は伊勢松坂の吉井定五郎が伊勢出身の商人三井高利に依頼して持ち帰り室内観賞用として品種改良し、優しい感じの花が作られました。その他、原種の特徴を残す 34 種を山形県長井市の湿地に長井系として保存し育てられております。花柄は小さく野性的である。花期は 6 月の梅雨時、一茎に 2 つ咲き、1 番花が咲き終わると、花柄を取る（2 番花を大きく咲かせるため）、最後に茎を切除する。咲く期間は極早咲き・早咲き・普通咲き・遅咲き・極遅咲きと順番に咲き、咲き出すと数が倍々に増えて咲き、20 日間の花と言われ、あとは遠景で眺め、栄枯盛衰を味わうことができます。花が終わると、3 年に 1 度球根が大きくなり養分が花の方に行かないので株分けをします。

花卉は英雄が車座をしている姿に見えることから、枚数を三英・五英・六英・八重という呼び方をします。生育環境は水際に咲く花で風情を楽しむために、早朝に水を入れ、夕方に水を抜いて一般的に鑑賞されております。花の特徴は花卉の心当たりが黄色で、そこがめしべです。葉は花よりも低く本筋があります。品種改良は中央にもあるめしべの裏におしべがありそれをおしべが立ち上がる前に切除しておき、めしべが立ち上がる時に他の交配したいおしべを塗りつければよく、あとは胚葉が膨らみ中に種ができます。それをまき、数年繰り返し、先祖帰りしなければ品種登録することができます。馬見公園の“待賢門”は登録されておられません。

カキツバタは花卉のめしべは白色で水中に咲ます。葉は花よりも長く本筋がない為、折れやすいのが特徴です。

あやめは陸に咲き、花卉のめしべはあやめ模様が入っております。

花菖蒲の品種名は味わい深いものが多くあります。例えば“盧生の夢”は旅人の盧生が夕暮れ時に宿につき、宿の主人が夕餉の支度をしている間に疲れ切つてうたた寝をし、その間に自分の一生の夢を見たという話のことです。“笑い布袋”は花を見れば見るほど笑っているように見えます。伊勢の舞妓は小雨の降る中で半回転に舞ながら開く瞬間を見て感動したことがあります。雨に濡れた“大和姫”などは濡れ美人そのものです。

